

富田林市指定文化財 第5号

大阪層群出土長鼻類切歯化石

【名称】 大阪層群出土長鼻類切歯化石（おおさかそうぐんしゅつどちょうびるいきばかせき）

【員数】 2点

【種別】 天然記念物

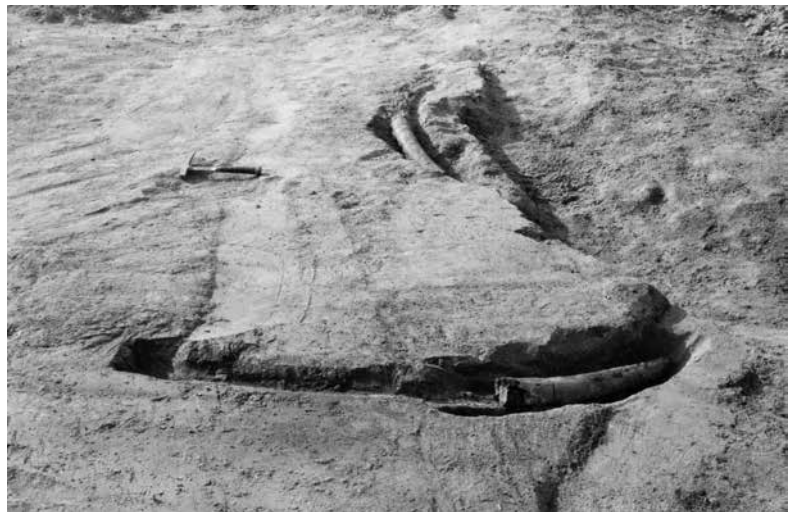
大阪層群とは、^{せんしんせい}新生代の鮮新世から^{こうしんせい}更新世前期（今から約300万年前から数十万年前）に形成された地層で、近畿地方に広く堆積しています。そのほとんどは平野部の深いところにあり、私たちが目にすることはほとんどありませんが、地殻変動によって隆起した丘陵端の地面に露出していたり、工事で地面を掘ったときに見つかったりすることがあります。

昭和56(1981)年6月1日のこと、富田林市内の羽曳野丘陵（現在の美山台付近）で行われていた工事現場で、大きな骨のようなものが発見されました。連絡を受けて市職員や当時の文化財保護委員、古生物学の研究者らによる緊急調査が行われ、翌日までにゾウ（長鼻類）のキバ（切歯）2点のほか多数の動植物の化石が採集されました。さらに、翌年以降にもゾウのキバや臼歯などの化石が採集されています。

研究者の分析によって、これらの化石が見つかったのが大阪層群のなかでも約120万年前に堆積した火山灰層の直上であることや形の特徴などから、臼歯の化石はアケボノゾウ（学名：Stegodon aurorae）というゾウのものと同定され、最初に発見された2点のキバの化石もアケボノゾウの可能性が高いとされました。また、いずれも右側のキバであったことから、別個体のものであることもわかりました。

アケボノゾウとは、今から250万年前から70万年前に生息していたゾウで、約530万年前に大陸から日本列島に渡ってきた種が独自の進化を遂げた日本固有種と考えられています。その化石は関東から九州北部にかけて見つかっていて、推定される大きさは、体の高さが2メートル、全長が4メートル前後と比較的小型のゾウですが、体の大きさの割に長いキバを持つという特徴があります。

富田林で最初に見つかったキバの化石は、短いほうを1号切歯、長いほうを2号切歯と名付け、研究者の手によって復元接合と保存処理が行われましたが、それ以外の化石は埋没以前の破損が著しく、種の同定や復元が難しい状態です。



発見された時の様子（手前が1号切歯、奥が2号切歯）



1号切歯（残存長約 800mm）



2号切歯（残存長約 1,510mm）

このたび文化財指定した化石2点は保存状態が比較的良好で、富田林市域で初めて発見された長鼻類化石であることに加えて、特に2号切歯の根本の部分には歯髓腔(神経の通っていたあと)が残っていて、古生物学上において貴重な資料といえます。



切歯化石のレプリカと骨格標本(すばるホール)

また、市内では、石川の河床でも大阪層群の露頭があり、水位が下がると動物の足跡や植物の化石を見ることができ、大きな足跡化石はアケボノゾウのものと考えられています。

大昔、富田林のあたりはゾウの楽園だったのででしょうか。

※切歯化石のレプリカは、アケボノゾウの骨格標本とともに、すばるホールで展示されています。



スマートフォンで左のQRコードを読み取ることで、富田林市文化財デジタルミュージアム「おうち de ミュージアム」をご覧いただけます。

富田林市文化財リーフレット 5

富田林市指定文化財第5号

大阪層群出土長鼻類切歯化石

発行年月 令和6年12月

編集発行 富田林市教育委員会

〒584-8511 富田林市常盤町1番1号
TEL(0721)25-1000 (代表)

